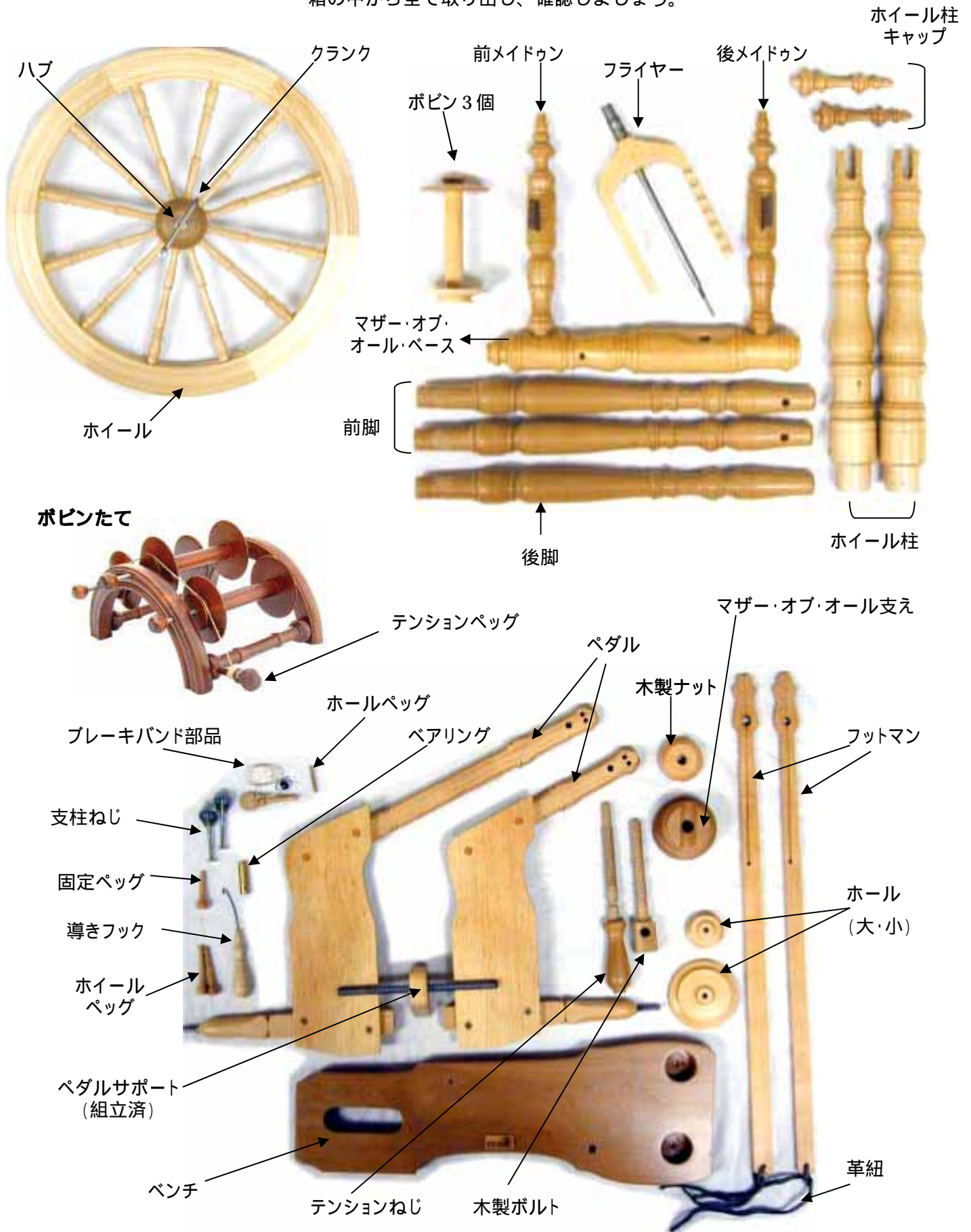


クロムスキー シンフォニー 組立説明書

白木をお求めの場合、オイルステイン塗料を塗られることをおすすめします。塗装は、湿気による木の歪みや汚れ等から紡毛機を守る役割をします。

箱の中から全て取り出し、確認しましょう。



後ろ脚を取り付けます。(前脚とペダルは組み立ててあります)
ベンチの裏側の穴に後ろ脚をすべり入れます。(もし固定させたい場合はボンドを使用します。)ペダル部分の両側から前脚をはめ込み、(金属部分には油を差しておきます。)ベンチに前脚を取り付けます。



ホイール柱をベンチに取り付けます。

ホイール柱2本の下部は表面が平らになっている部分があります。その平らな部分がお互い向かい合わせになるよう、ベンチ表側の2個の大きな穴に、それぞれ差込みます。ホイール柱下部に横向きに空いている小さな穴がベンチの端側にくるようにし、その穴に平行ナットをすべり込ませます。ボルトに真ちゅうのワッシャーと銀色のワッシャーを通し、ホイール柱の横から挿入した平行ナットのねじにかみ合うよう、ベンチの下から差し込みます。ボルトをねじ込む時、きつく締めないようにしておきます。ドライブバンドを2重に輪にし、手前のホイール柱に掛けておきます。

ホイールを取り付けます。

ホイールの軸に、ワッシャー、ベアリングの順で、差し込みます。ホイールの軸をホイール柱の上にのせます。写真のように、ホイールペグを差し込みます。ベアリングには、くぼんだ部分がありますので、その凹みの上をペグが通るように位置します。後側も同様にペグを差し込みます。



フットマン2本をクランクに取り付けます。

フットマンの小さなねじをはずします。2本のフットマンのうち、大きい穴の空いた方が外側に来ます。切れ込みをそっと広げ、クランクの端がフットマンの穴の位置に来る様にすべり込ませます。フットマンの切れ込みが開かないよう、ねじでしっかりと留めます。もう1本のフットマンは内側に位置します。外側のフットマンと同様にクランクに取り付けます。こちらのねじはきつく締めないようにします。ホイールハブに近い方のフットマンは右脚に、外側のフットマンは左脚に革紐で結びます。ペダルを踏んでみて、正常に動くかチェックしましょう。



革紐の結び方

フットマンの穴に通し、ペダルの1つ穴に紐の両端とも通す。ペダルの2つ穴にそれぞれ片方ずつひもを下から通し、上でしっかりと結ぶ。

革紐の結び目がゆるんできたら、その都度結び直しましょう。

マザー・オブ・オールを組み立てます。

木製の長いねじ(テンションねじ)、木製ボルト、固定ペグ、マザー・オブ・オール支え、マザー・オブ・オール・ベース、木製ナット、メイドウン柱2本(前・後)を取り出します。いくつかのパーツは既に組み上がっています。ベンチの横長の穴に木製ボルトを入れ、ベンチの左側面からテンションねじを挿入し、木製ボルトの穴にテンションねじが入るようにし、ねじ込みます。固定ペグをベンチの下から挿入し、テンションねじに彫られている太い溝にペグの先が当たるよう、ねじの位置を調整します。マザー・オブ・オール支えとマザー・オブ・オール(組立済)を木製ボルトの上から差し込み、木製ナットで留めます。

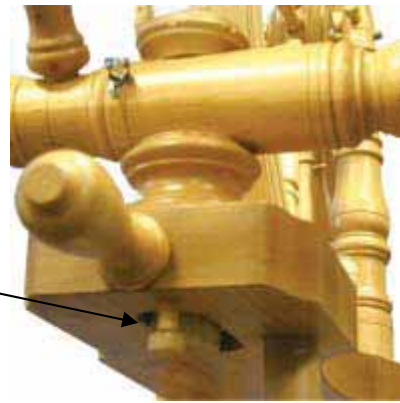
フライヤーの軸(スピンドルシャフト)にホールを反時計回りに回してとりつけます。

注意：ホールをはずすときは時計回りに回します。回す方向に気をつけてください。

大・小それぞれのホールに直径サイズの違う2本の溝があります。またポビンにも直径サイズの違う2本の溝がありますので、ドライブバンドをかける位置を使い分けてください。

< 回転比が小さくなり、撚りのかかるスピードが遅くなる場合 >

大ホールを使用し、ホールの大きい円周の方にドライブバンドをかけ、ポビンも大きい円周の溝に掛ける。



固定ベッグ

小物

ベンチの小さい穴にホールベッグを差込み、使用していないホールを収納しておきます。
導きフックもベンチの穴に収納しておきます。
ホイール柱キャップ 2 個をホイール柱に上から差し込みます。

< シングルドライブにて紡ぐ時 >

アイスクリュースプリングを引っ掛けます。アイスクリュースの先のねじをマザー・オブ・オールの左の小さな穴にねじ込みます。スプリングに繋がれたブレーキバンドをボビンの溝の上を通ります。もう一つのアイスクリュースをマザー・オブ・オールの右側の穴にねじ込みます。ブレーキバンドはそのアイスクリュースからブレーキベッグの穴を通して結ばれます。ブレーキベッグはマザー・オブ・オールの穴にセットされます。ブレーキバンドの長さは、ブレーキベッグにバンドの余分を巻きつける形で調節します。

< ボビン立て >

1 ページの写真の通り、ボビン立てを組み立てます。両サイドのアーチを支える 2 本の棒にはそれぞれ大きさの違う穴が空いています。テンションベッグを差し込む穴とアイスクリュースをねじ込む穴です。その穴の位置が 2 つとも同じ側にくる様に（右でも左でも良い）取り付けます。
アイスクリュースにスプリングを取り付けます。スプリングに繋がれたブレーキベルトはボビンの上を通してテンションベッグに結び付けられています。ベッグを回して、ブレーキの張り具合を調節します。

< 紡毛機の調整 >

* ドライブバンド（2 重）をホイールに掛けます。1 本はボビンの溝（小ホールを使用する際、ボビンに掛けるベルトの位置は小さい円周の溝です。）もう 1 本はホールに掛けます。バンドのテンションの調節は、テンションねじ（紡毛機の左側面）でします。バンドの張り具合は、バンドがホイールの上を滑らない程度で、しかもきつすぎないテンションです。紡ぎやすい位置を見つけてください。

* ホイール柱のボルト（ベンチ裏側から差し込んだボルト）はゆるく留めておきましたので、ここでホイールとフライヤーとの角度調整を行い、しっかりと留めます。まず、ホイールの右側に立ち、ホイール上から伸びているバンドの角度を見ます。バンドがホイールの角度の延長線上にボビンやホールにつながるよう、ホイール柱の向きを少し動かしセットします。数回ホイールを回してみ、バンドの動きを見てみます。一直線のラインを描いている状態でベンチ裏のボルトをしっかりと締めます。

< メンテナンス >

機械油を注す箇所

- * 前脚に取り付けられているペダルの両端の金属部分
- * ペダルサポート（右脚ペダルと左脚ペダルの間のすき間から見える金属の棒にオイルを注す）
- * フライヤーを支える革のベアリング
- * フライヤーやホールの金属部分
- * クランク/フットマンのつながっている金属部分
- * ホイールの軸にかぶせられた金属のベアリング 2 個（油注入穴があります。）

ワックス

木製ねじ部分にはワックスを塗ることをおすすめします。ろうそくや家具用のワックスを塗っておくと、よりスムーズにねじを動かすことができます。

La mer ラ・メール株式会社

〒606-8126 京都府京都市左京区一乗寺向畑町 26 番地 1
TEL 075-634-5942 FAX 075-634-5943
E_mail : lamer@joy.ocn.ne.jp

